

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2991700010		
法人名	有限会社在宅介護サービス応援隊		
事業所名	グループホーム安堵園		
所在地	奈良県生駒郡安堵町大字西安堵570-1		
自己評価作成日	令和1年6月14日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqokensaku_mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2991700010-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=">www.kaiqokensaku_mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2991700010-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和 1年7月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自立・自由・尊厳つながりを理念としており、嫌がられることをしないを基本に、地域と共に支えあいがら、生きがいのある生活、その人らしく安心と尊厳のある生活を大切に、家庭的な温もりの中で自立した生活ができるようお手伝いしています。また研修を通じて認知症の方々への理解が一層深まり、細かいことに気付くことが出来るよう、月に一度認知症研修を行い、その人らしい毎日を過ごして頂けるように支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年7年目を迎え、利用者全体がホームに馴染み安心して落ち着いた生活ができるようになったため、こちらも理念の中にある「繋がり」の一つである「地域との結びつき」に力を注いでいる。事業所単位で言えば「町に2つあるグループホーム」だが法人としては「町唯一のグループホーム」ということもあり、法人は町担当者からホームの事だけでなく町に住む在宅の方たちの相談まで受けている。また中学生の実習の受け入れや、町のイベントにも参加するなど地域との結びつきを強化している。職員間の意思疎通が図られており、冗談めいた会話をしあいながらも気づけば利用者も一緒になってその輪の中に入っている。車で外出する機会も多い。職員と利用者が一緒になって楽しく暮らしている、そんな楽しいホームである。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由・自立・尊厳・繋がり」という理念に基づき、入居様それぞれの意思を尊重しながら、職員それぞれが考慮し、行動しています	今まで使用していたパンフレットには理念が書かれていたが、「安堵園」を新設した機会に刷新したパンフレットには理念は省略されている。また理念を管理者は理解されていたが、職員が理解し共有するまでに至っていない。	地域密着型サービスの事業所であることを認識し、ホームの理念を地域に伝え理解を得る取組みと共に、職員が理念を理解し共有を図り実践に活かす取組みを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のかたのボランティア(民謡・南京玉簾など)活動を楽しまれています。また平成29年11月に3日間中学生実習生を受け入れました。入居者様も大変喜ばれ、また逆に私たちも学ぶところもありました。心温まるお手紙も頂きました	前回の外部評価で「中学生の実習の受け入れの準備」と「ホーム主催の夏祭りを実現した」の件について、今回の訪問調査でそれらが実現と継続している事を知り、地域との繋がりを大切にしているホームの姿勢が伺えた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベント(夏祭り・芋煮会など)には積極的に参加して頂いています。大衆演劇などは大変楽しめました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催により様子の報告、意見交換等を行っています。民生委員の方々の参加要請は継続しています。また家族様にも要請していますが、タイミングが合わず、実現には至っておりません	運営推進会議は町担当者、地域包括支援センター職員、地域代表者、利用者の参加を得て2ヶ月に1回開催している。会議では「活動報告だけではなく意見交換の場へ」という前回の課題も達成されており、会議では地域の情報交換や様々な意見交換が行なわれた。	運営推進会議へ家族の参加がないのは、前回の外部評価の課題でもあり、自己評価においても指摘があった。重度化する利用者の代弁者となる家族を会議へ参加してもらい要望などを聴きサービスに活かす取組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	健康福祉課・地域包括支援センター・社協がすぐ近くにあることで、連絡・報告・相談が綿密に行うことが出来ています	町担当課とは利用者についての相談し助言を受けている。また、ホーム利用の入居者相談にとどまらず町内の在宅の方たちの相談やサービス利用について町担当者や情報交換を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上・安全確保の観点から玄関は施錠しています。外気浴を希望されるときは外にでて頂いています	契約書に身体拘束をしないことを明記している。「嫌がる事はしない」を鉄則とし、カンファレンスを行い、各利用者の病歴やADLの状態等を把握し話し合い、より良いケアを工夫している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内におきまして虐待は全くありません。また定期的カンファレンスにて研修を行うことでどのような行動・行為が虐待となるかを理解することで防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されています入居者様は1名おられます。カンファレンスにて研修を行うことで各スタッフは理解し、対応しています		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っており、疑問点や不安なことはしっかり伺っています		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会時には何かご意見などを伺うことが出来ますように積極的に話しかけを行っています。運営推進会議には家族様の参加はありません。今後も運営推進会議への理解を説明し、協力を求めていく予定です	前回の外部評価の課題であった、利用者や家族の意見や要望を聴く取組みが達成されていない。運営の根幹となる利用者等の思いを聴き把握し運営に活かす取組みの重要性に気付いていただきたい。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のカンファレンスにて意見や提案などを聞いています。また連絡ノートを通じて、大事な用件は全員が周知徹底できるようにしています	管理者は月1回行うカンファレンスにおいて職員の意見や提案を聴いている。また、管理者は職員との立場を超えて風通しをよくし、どんな事でも言える環境づくりを心掛けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「自由・自立・尊厳・繋がり」という理念に基づき、入居様それぞれの意思を尊重しながら、職員それぞれが考慮し、行動しています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きやすい環境のために短時間シフトを継続することで近隣の方々が多数勤務しています。また経験豊富なスタッフも数名、出来る業務を行ってもらっており、逆に食事作りなどのお知恵ももっていることもあります。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡山市・安堵町の定期的な交流会に参加し、意見交換を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず聞き取りをさせて頂き、暫定プランで1ヶ月サービスを行っています。その間ご本人の様子をみて、傾聴に心がけ、気付きを持った関係作りを行っています		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を希望されます前にしっかり困っておられることを伺い当ホームで出来ることを話し合い、相互の信頼関係を作っています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方がグループホーム利用が適切かどうか冷静に判断しています。可能な限りご本人、相談者の話を傾聴しています		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ隣に座り、お話しをしたり、歌を歌ったりと、改めて何かを行っているわけではありませんが、当たり前前の日常を継続するようにしています		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は日常の様子をお話ししています。また家族様のお話をされたときは出来るだけその時のご様子を詳しくお伝えするようにしています		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前のご友人等の訪問はほとんどありませんが、依頼があるときは速やかに支援に努めます	利用者との何気ない日常の会話の中に、利用者の大切にしてきたものや馴染みのヒントが隠されていると考え会話を大切にしている。利用者は近隣の散歩時や、デイサービスの合同イベントなどでかつての友人と会い、話に花を咲かせる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれが認識できるように好きな歌やゲームなどを行うことでよい雰囲気となるように心掛けています		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退去となられ、その後逝去された方のお通夜には参列させて頂いています。その時のご様子をうかがい、生前のお話をさせて頂いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人意向を確認することは難しくなってきました。家族様から以前のお話を伺ったりし、色々ご本人様を推察するようにしています	各利用者に対して担当ケアワーカーがついているので、職員は日々の生活の様子や会話から利用者の思いを受け止めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今後以前伺ったような生活歴・趣味・好きなこと・苦手なことを伺うようにし、会話などの参考にしたいと思います		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に精神状態の変化や細かいくせ・動作など気付くようにすることで不安感を感じて頂かない様にしています		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	つきに1度のカンファレンスにてケアプランの長期・短期目標に対してのモニタリングを行っていますまた現状の問題点について意見を出し合っています	利用開始時に初期面接を行い、その後の生活状況から管理者やケアマネジャー、職員が情報を共有し、暫定プランを作成している。暫定プランは1ヶ月後に評価し、本プランを作成している。プランの見直しは特変等がなければ基本6ヶ月ごとに行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に気付いたことは介護記録に記載し、またすぐにスタッフに周知徹底しないといけないことは連絡ノートを活用するようにしています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自身で歩行のためのリハビリを行うことは難しい方に家族様の希望もあり、ホームにて鍼灸医の歩行のためのリハビリを受けておられます。男性の先生ということもあり、その時は歩行器でしっかり歩行されています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郡山市の包括支援センターから紹介して頂いた南京玉すだれは皆さん楽しまれています。また以前勤務していた方が「折り紙」を教えて下さっています。出来上がった作品は壁面に飾らせてもらっています		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度の内科往診・一度の歯科往診を受けておられます	協力内科医が月2回訪問診療を行っている。、歯科は月1回の診療訪問がある。急変など緊急時を考慮し、利用開始と同時に協力内科医がかかりつけ医としている。皮膚科等は個人のかかりつけ医とし通院している。中には個人のかかりつけ医が往診しているケースもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の看護師によります血圧・体温・spo2の計測を受けておられます。また皮膚科医師指示による処置も受けており、適切な助言もうけています		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されているときは細かい情報をしっかりお伝えしています。現在1名の方が入院されており、ご様子は家族様から伺うようにしています		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成29年9月29日ホームにて看取りをさせて頂きました。徐々に悪化していかれ、家族様もホームでと希望されました。往診医ともしっかり連携を行い、スタッフそれぞれが覚悟をもって関わりをもちました。デスクンファも行いました	一昨年ホーム開設以来初めての看取り介護を行った。ご本人が重度化した時点で医師が家族に説明し、家族の思いも聴き、職員と共に話し合い、看取りのケアプランを作成した。職員は看取りの不安と覚悟を持ちながらも平常心で日々の支援に取り組んだ。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは定位置の所在としています。今後カンファにてシュミレーションを行う予定です		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を依頼しての火災訓練の他に、非常災害対策計画に基づいたをデイサービス合同にて実施しています。実際に歩行して頂く・車椅子介助を行うことでどのような問題点があるか後日話し合っています	年2回避難訓練を行っている。非常時に地域の協力について運営推進会議において町担当課や地域代表に協力をお願いをしている。町からは災害の際の被災者の受け入れの要請もある。備蓄は米・飲料水・缶詰等2日分を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念において「尊厳」を取り入れることでスタッフ間において人生の先輩であるという気持ちはスタッフそれぞれが持ち合わせるようにしています	「嫌がる事はしない」はホームの鉄則であり、「言葉かけに注意する」、「無理強いしない」、「したいことをして頂く」を念頭に置き支援している。また運営理念でもある「尊厳」を遵守すべく職員たちは日々支援に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昼食・夕食は「何がいいですか？」と伺うようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望をおっしゃることは難しくなっていますが、天気のよい日には外にお連れしたり、歌がお好きな方にはお好きな歌を歌えるような雰囲気作りをしたりしています。無理強いはしていません		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に2度訪問美容を受けておられます		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は出来るだけ伺うようにしています。配膳などは難しいですが、豆の皮をむくなど事前準備となるようなことはして頂いています	利用者に「食べたいモノ」を聴き、冷蔵庫の中の食材と相談しながら3食とも職員が手作りしている。近隣の方や町から野菜をいただく事もある。誕生日会や節句には赤飯やバラ寿司を作り利用者に喜ばれている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自身で食事を楽しんで頂けますよう、見守りを行っています。どうしても手で食べるほうがスムーズな方にはしっかりアルコール消毒等を行い、一口サイズにすることで少しでも食べて頂くようにしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれに応じた口腔ケアを行っています。また月に一度歯科往診を受けておられ、口腔内の清潔保持に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを確認、またご本人にも伺いながらトイレ誘導を行っています。	「トイレでの自然排泄」がこのホームの排泄の支援の基本方針であり、適切なタイミングでのトイレ誘導を行い、現在すべての利用者はリハビリパンツとパットで対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を常に意識しており、朝食時にはヨーグルトを食べて頂くということを継続しており、自然な腸の活動促進を行っています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	デイサービスにて1回、ホームにて1回、週2回入浴して頂いています。希望される方は3回入って頂いています	月曜日と木曜日の13時30分から入浴の準備をしており、利用者はどちらかに入浴している。またデイケアの風呂も利用しており週2回の入浴となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後にはご本人に伺いながら休んで頂くようにしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診記録を作成し、服用薬・塗布薬の変更は項目を作成し、誰もが確認できるようにしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな歌をBGMとして流し、その時代の思い出などを話して頂けるような雰囲気作りを行っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	100歳のお誕生日に家族様が集まるということでレストランに行かれました。会席料理をしっかりと召し上がられ「美味しかった」とおっしゃいました。家族様も思い切ってお出掛けすることが出来てよかったですと喜ばれていました。	日々の近隣への散歩や車での遠出などの外出支援を行なっている。前回の目標達成計画の課題「家族に外出の様子を伝える工夫」の取組みも、今回の家族アンケートの回答によると芳しくないように思われる。引き続き「家族に外出を伝える工夫」の取組みを期待する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理しています。お小遣いとして、毎月清算しています		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話を希望されるときは話しやすいように個室にて行って頂いています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画を、入居者様が見えるところに作成するようにしています。また去年はゴーヤを植え、皆さんで成長を楽しんで頂きました。今年もすぐに見えるところでグラジオラスを植え、成長を楽しみにしてもらおうと思っています	居間は利用者それぞれの居場所作り、心地よい空間造りを念頭に置き、ソファやテーブル、テレビ等の配置を工夫している。また壁には職員と利用者の合作の季節感あふれる作品が飾られ、利用者は其々思い思いの時間を過ごされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの心地よい空間を維持できるように家具の移動などを行い、確保しています		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具をお持ちして頂くようにしています。飾りなどは家族様ご本人の趣味等から選ばれています。	ホーム備え付けのエアコンとベッド以外は、利用者其々思い入れのあるモノを持ち込み心地よい空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は自身で動きやすい家具動線としています。居室自立されている方が少なくなっているため、家具の上などの整理整頓を心掛けています。		